

事業報告書

〔自 2020年4月1日 至 2021年3月31日〕

1. 事業概要

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために人の物理的な移動を自粛せざるを得ない状況下、当財団においても、助成対象者に対する助成金贈呈式を止む無く中止したり、研修会・ワークショップ・セミナー等の各種自主企画をオンライン開催としたことなど、助成事業の推進に、これまでとは異なる工夫を要した1年であった。しかしながら、助成プログラム自体は、ほぼ前年並み（研究助成プログラムは、新テーマへの切り替えのための検討期間として休止）の内容で計画通りに実施することができた。

助成対象者の方々においても、予定していたフィールド調査ができなかったり、シンポジウムなどの大規模イベントを断念せざるを得なかったりなどの多大な苦勞をされたわけであるが、当財団としてはオンラインによるモニタリングを行うことで、助成対象者の企画見直しや助成期間延長などの計画変更の相談に柔軟に対応し、所期の目標達成に向けて支援を行った。

- (1) <特定課題>前年度に引き続き、「先端技術と共創する新たな人間社会」(6件・40百万円)の3年目と「外国人材の受け入れと日本社会」(6件・50百万円)の2年目の2つのプログラムに取り組んだ。
- (2) <国内助成プログラム>助成開始時期を10月に変更、「発信・提言助成」の枠組み撤廃などの小変更を行った以外は、前年度に引き続き「しらべる助成」「そだてる助成」の2つの枠組みで、「担い手育成」と「課題解決の仕組み構築」の視点を重視したプロジェクトに対する助成を行った。(計22件・81.15百万円)
- (3) <研究助成プログラム>9年間に亘り実施してきた助成プログラム「社会の新たな価値の創出をめざして」の総括・振り返りを実施し、2021年度からの新助成プログラムの検討を行った。
- (4) <国際助成プログラム>当年度も基本テーマを「アジアの共通課題と相互交流 ー学びあいから共感へー」とし、日本を含む東アジアと東南アジアの共通課題に対する「2国以上の地域実践者による国を越えた現場交流・課題解決」に取り組むプロジェクトへの助成を行った。(9件・70百万円)
- (5) <イニシアティブ・社会コミュニケーション>例年通り、NPOの基盤強化や市民参加の促進など非営利セクターの発展に資するプロジェクトや助成プロジェクトの成果や手法などをインパクトのある形で社会に発信・普及させる取組みに対して助成を行うとともに、特に当年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止やそれに伴い顕在化した課題解決に取り組むプロジェクト(例:READYFOR(株)が立ち上げた「新型コロナウイルス感染症:拡大防止活動基金」に対する助成10百万円)を重点的に助成した。(計5件・40.64百万円)

<2020年度助成実績>

助成プログラム		応募件数	助成件数	助成金(千円)	予算(千円)
公 募	特定課題 先端技術と共創する新たな人間社会	34	6	40,000	40,000
	特定課題 外国人材の受け入れと日本社会	75	6	50,000	50,000
	国内助成プログラム	231	22	81,150	100,000
	研究助成プログラム	一時休止			0
	国際助成プログラム	140	9	70,000	70,000
非 公 募	イニシアティブプログラム	—	4	31,140	40,000
	社会コミュニケーションプログラム	—	1	9,500	15,000
計			48	281,790	315,000

II. 助成内容

1. 特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」

前年度に引き続き、先端的な科学技術によって生じる社会的諸課題にかかわる分野を対象として募集した。応募要件に代表者の主たる居住地を日本とすることを加え、それ以外は前年通り、代表者は45歳まで、分野・領域横断的なチーム編成による共同研究プロジェクトとした。また、技術開発が主たる目的のものは不可とし、分野・領域を架橋していること、国際的な研究・活動に資するものであること、具体的な成果発信・方法が明示されていることなどを要件として設けた。

公募説明会はオンラインで2回開催し、詳細を広く告知する機会を設けた。合計約45名の参加者があり、本プログラムについての理解を広める良い機会となった。また、主要大学等への案内やNPO・NGO関連の情報ウェブサイトへの掲載、SNS上での有志グループへの告知など、前年度よりも幅広い周知を行った。

公募の結果、応募総数は34件、そのうちの6件を採択した。

公募告知と助成対象者の成果発表を兼ねて、10月7日にウェビナーによる公開ワークショップを開催した。助成対象者3名と研究助成プログラム助成対象者1名で「コロナ時代における先端技術と社会」について議論を行った。当日の視聴者は約100名で、その動画を編集しYouTubeで公開した（再生回数約400回）。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等、プロジェクトの進捗を確認するために、全助成対象者にオンラインでモニタリングを実施した。

(1) テーマ： 「先端技術と共創する新たな人間社会」

(2) 公募期間： 2020年10月1日～12月4日

(3) 助成実績

上段：2020年度
(下段：2019年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
34	6	40,000	40,000	17.6%
(32)	(7)	(40,000)	(40,000)	(21.9%)

2. 特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」

前年度に引き続き、外国人材の日本社会への受け入れに関し、基本的な課題の解明と対応の促進、人材の育成や連携の促進、プラットフォーム構築等に資することを目的にプログラムを運営した。設定された助成課題に対する調査・研究を行い、かつ実践活動として助成期間中に課題解決や状況の改善に向けた仕組みや制度構築に取り組むプロジェクトへの助成を行う。ただし、本年度は下記(4)(5)に関してのみ、実践よりも調査・研究に主眼を置くプロジェクトも選考対象とした。

助成課題として設置した、(1)外国人材が能力を最大限発揮できる環境作り、(2)外国人材の情報へのアクセスにおける格差の是正、(3)ケア・サポート体制を担う人材と既存資源の見直し、(4)高度人材の流入促進、(5)日本企業の海外事業活動における知見・経験からの学びと教訓、の5点は継続した。

前年度は(4)及び(5)の応募が少なかったことを受け、経団連・同友会といった経済団体、及び地域課題の調査研究や提言活動に携わる全国のシンクタンクが会員となる地方シンクタンク協議会など、当プログラムに関わる経済系のネットワークへの情報提供に努めた。

前年度よりも公募期間を3週間程度長く設け、2度の公募説明会はいずれもオンラインで開催した。150名を超える申し込みを得たほか、事前に約40件の応募相談を受けた。

公募の結果、応募総数は75件、そのうち6件を採択した。

また、2019年度助成対象者を招き、オンラインでの報告会を実施した。国際助成プログラムの類似テーマの助成対象プロジェクトとの連携も意図した。

(1)テーマ： 「外国人材の受け入れと日本社会」

(2)公募期間： 2020年9月7日～11月21日

(3)助成実績

上段：2020年度

(下段：2019年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
75	6	50,000	50,000	8.0%
(90)	(7)	(45,000)	(40,000)	(7.8%)

3. 国内助成プログラム

2021年度に一般枠の助成プログラム(国際助成・研究助成・国内助成)の助成開始を10月に統一する計画を踏まえ、助成開始を従来の4月から10月に、公募開始を4月に変更した。

基本テーマや重点領域などは前年度を踏襲した上で、助成の枠組みについては「発信・提言助成」を撤廃(社会コミュニケーションプログラムに統合)し、「しらべる助成」「そだてる助成」の枠組みでの公募とし、助成総額は1億円とした。

公募に際しては、新型コロナウイルス感染症拡大により従来実施していた各地のNPO支援組織と連携した現地での公募説明会の開催が困難となり、オンラインによる説明会を6回開催した。毎回の説明会には定員(50名)近い参加申込があったが、公募時期の変更に関する周知不足や公募期間と新型コロナウイルス感染症拡大が重なった影響などから、応募件数は231件となり前年度(318件)に比べ100件弱の減少となった。

選考過程では、重点領域や選考基準に則り、助成総額には満たなかったが過去の助成対象プロジェクトの水準も参考に評価や審議を重ね、22件(しらべる助成13件、そだてる助成9件)への助成を決定した。

また、助成以外の活動として、NPOなどの人材育成や組織基盤強化を目的としてトヨタ自動車(株)の問題解決手法を学ぶ講座である「トヨタNPOカレッジ『カイケツ』」の5期目を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、受講者数の絞り込み(11団体14名が受講)、実施スケジュールの変更、第2回講座以降はオンライン実施に切り替えて実施した。

「しらべる助成」 日本全国を対象とし、地域課題の解決に向けた本格的な事業を立ち上げるための事業戦略の立案までの一連の調査活動に対する助成

「そだてる助成」 日本全国を対象とし、地域課題の解決に向けて多様なステークホルダーと共に取り組む、課題解決の仕組みづくりや地域の担い手となる人材を育てることを目的とした事業に対する助成

(1)テーマ： 「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ ―地域に開かれた活力ある課題解決の仕組みを通じて―」

(2)公募期間： 2020年4月10日～6月8日

(3) 助成実績

上段：2020 年度
(下段：2019 年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
231 (341)	22 (28)	81,150 (101,770)	100,000 (110,000)	8.1% (8.2%)

《2020 年度の内訳》

	応募件数	助成件数	助成金額(千円)	採択率
しらべる助成	90 件	13 件	12,750	14.4%
そだてる助成	141 件	9 件	68,400	6.4%
合 計	231 件	22 件	81,150	8.1%

4. 研究助成プログラム

当年度は、9 年間にわたって実施してきた「社会の新たな価値の創出をめざして」の総括・振り返りを実施し、新しい助成プログラムに向けた検討をする一年とした。全助成対象者に向けたアンケート調査(日本総研)と第三者による評価、それらをまとめた報告書を作成して、総括・振り返りを行った。

また、財団内における研究助成プログラムの位置づけについて改めて議論を行い、国内助成プログラム・国際助成プログラムが実践的活動を支援する助成プログラムである一方で、研究助成プログラムは、そうした活動の基盤となる考え方・視点を提供するような研究活動を支援するものであることを確認した。

新しい助成プログラムについては、若手の研究者が柔軟で新規性に溢れた発想に基づく研究活動を活発に展開し、様々な課題に挑戦し豊かな成果を挙げることが、希望に満ちた未来社会の創造につながるという考えのもとに組み立て、その結果、2021 年度は新テーマを「つながりがデザインする未来の社会システム」とし、①東京大学未来ビジョン研究センターとの「協働事業プログラム」による若手研究者に対する安定した研究活動の場の提供、②新型コロナウイルス感染症によって顕在化した諸課題に対応するプロジェクトを、分野／領域を限定せず幅広く募集する「共同研究プログラム」の 2 本立てで実施することとした。

贈呈式や研究報告会等の開催が見送られたため、助成対象者同士の交流やネットワークづくりのため、特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」の助成対象者と合同でオンラインカフェミーティングを実施した。10 月～11 月まで全 7 回開催し、参加者は国内・国際助成プログラムからも募り、研究者と実践者が議論できる機会となった。

5. 国際助成プログラム

当年度も、前年度の基本テーマと趣旨を継続した。具体的には、日本を含む東アジアと東南アジアの共通課題に対する「2 国以上の地域実践者による国を越えた現場交流・課題解決」への助成を行った。重点領域は設けず、新規の社会課題の提起に門戸を開いた。主たる居住地が日本にある方を代表とする応募要件を設け、助成総額は前年度同様 7,000 万円とした。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が公募期間と重なり応募数の減少が懸念されたが、147 件(2019 年度)から 140 件(2020 年度)とほぼ同水準となった。採択数は 9 件となった。

特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」と合同でオンラインセミナー(全 5 回)を実施した。「医療と介護」「情報と制度」のそれぞれのテーマで 2 回ずつ開催し、両プログラムの助成対象者から

報告、外部有識者2名からコメントをいただいた。本セミナーはYouTubeでライブ配信し、参加者との質疑応答を行ったほか、全編とダイジェスト版をトヨタ財団のYouTubeチャンネルで公開した。

(1)テーマ： 「アジアの共通課題と相互交流 ―学びあいから共感へ―」

(2)対象国： 東アジア・東南アジアの国・地域

(3)公募期間： 2020年4月1日～6月6日

(4)助成実績

上段：2020年度

(下段：2019年度)

応募件数	助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)	採択率
140	9	70,000	70,000	6.4%
(147)	(9)	(70,000)	(70,000)	(6.1%)

6. イニシアティブプログラム

当年度も、NPOの基盤強化や市民参加など非営利セクターの発展に資するプロジェクトに対する助成を行うとともに、他組織との共同助成、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトなど、本プログラムの本来の目的である、将来の新しいプログラムの開発に資するためのプロジェクトを支援した。

具体的には、公益法人協会が行う米国非営利法人制度調査ミッション事業(1件・200万円)への助成を行うとともに、新型コロナウイルス感染症拡大状況において、READYFOR株式会社が立ち上げた「拡大防止基金」並びに「いのちとところを守るSOS基金」事業の活動費への助成(2件・2,000万円)、並びにベトナムにおいて感染患者数が少ない理由解明の研究活動(1件・914万円)への助成を行うなど、民間財団として支援の意義が大きいと考えるプロジェクトへの助成を行った。

○助成実績

上段：2020年度

(下段：2019年度)

助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)
4	31,140	40,000
(8)	(33,330)	(25,000)

7. 社会コミュニケーションプログラム

当年度も、全プログラムを対象に、過去に助成したプロジェクトの成果や手法などをインパクトのある形で社会に発信・普及させることを目的に助成対象の発掘を図った。

具体的には、国内助成プログラムにて支援した障がい者の一般就労支援を行うプロジェクトの次段階として、全国の働く障がい者の動画データを子供たちやその親が自由に閲覧できるプログラムの開発プロジェクト(950万円)への助成を行った。

○助成実績

上段：2020年度

(下段：2019年度)

助成件数	助成金額(千円)	予算(千円)
1	9,500	15,000
(1)	(8,500)	(20,000)

III. その他の活動

1. 広報活動

プログラム部門と連携した座談会等を企画し、その成果を広報誌(JOINT)誌面やウェブサイトで発信するなどプログラム部門との連携を強化した。併せて年次報告書(和・英)も発行した。

	刊行日	特集タイトル	発行部数
第33号	2020年4月9日	助成対象者との対話	5,000
第34号	2020年10月19日	Withコロナ時代の共助	
第35号	2021年1月22日	Withコロナ時代の交流	

2. 報告会の開催

助成対象者間のネットワーク作り、研究や事業に関する情報交換、助成プロジェクトの成果向上などを目的に報告会を開催した。開催概要は以下のとおり(再生回数は2021年4月末参考値)。

開催日	タイトル	開催地	参加者/再生回数
2020年7月31日	国内助成プログラム2019年度助成対象者キックオフ研修会	オンライン	助成対象者約20名
2020年9月(4回)	国内助成プログラム2018年度助成対象者中間研修会	オンライン	助成対象者各回5~6名
2020年9月30日	国際助成プログラム×特定課題「外国人材」セミナー①	オンライン	助成対象者など約100名/1,200回以上
2020年10月7日	特定課題「先端技術」公開ワークショップ	オンライン	助成対象者など約100名/400回以上
2020年10月20日	国際助成プログラム×特定課題「外国人材」セミナー②	オンライン	助成対象者など約70名/750回以上
2020年10月28日	国際助成プログラム2018年度助成対象者ワークショップ	オンライン	助成対象者など約20名
2020年10月(3回)	研究助成プログラム×特定課題「先端技術」カフェミーティング	オンライン	助成対象者など各回5~6名
2020年11月18日	国際助成プログラム×特定課題「外国人材」セミナー③	オンライン	助成対象者など約50名/700回以上
2020年11月(4回)	研究助成プログラム×特定課題「先端技術」カフェミーティング	オンライン	助成対象者など各回5~6名
2020年12月8日	国際助成プログラム×特定課題「外国人材」セミナー④	オンライン	助成対象者など約50名/450回以上
2021年3月公開	国際助成プログラム×特定課題「外国人材」セミナー⑤(過去4回の総括)	オンライン	収録映像を配信/150回以上

NPOの組織基盤強化を図ることを目的として実施している、トヨタ自動車のマネジメントノウハウを学ぶ講座トヨタNPOカレッジ「カイケツ」の開催概要は以下のとおり。

	開催日	開催地	参加者
第1回	2020年6月18日	東京	11団体・14名
第2回	2020年7月16日	オンライン	
第3回	2020年8月20日		
第4回	2020年9月15日		
第5回	2020年10月19日		
最終報告会	2021年1月22日		

IV. 会議実績

理事会

第54回理事会〔2020年6月3日(水)〕

1. 2020年度 イニシアティブプログラム助成対象の決定について
2. 2020年度 社会コミュニケーションプログラム助成対象の決定について
3. 2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)事業報告(案)及び決算(案)の承認の件
4. 第22回評議員会の日時・場所・目的である事項について
5. 改選後の役員候補(案)について

報告事項

1. 評議員選定委員会開催結果について

第55回理事会〔2020年6月24日(水)〕

1. 代表理事及び業務執行理事の選定の件
2. 会長、理事長及び常務理事の選定の件
3. 評議員会運営規程の改定について
4. 理事会運営規程の改定について

第56回理事会〔2020年9月25日(金)〕

1. 2020年度 国内助成プログラム助成対象の決定について
2. 2020年度 国際助成プログラム助成対象の決定について
3. 2020年度 イニシアティブプログラム助成対象の決定について
4. 2020年度 会計監査人監査報酬について

報告事項

1. 会長・理事長・常務理事の職務執行状況について

第57回理事会〔2020年12月24日(木)〕

1. 2020年度 イニシアティブプログラム助成対象の決定について
2. 育児・介護休業規程の一部改訂について

第58回理事会(書面)〔2021年1月20日(水)〕

1. 選考委員の選任について(特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」)

第59回理事会〔2021年2月26日(金)〕

1. 2021年度 研究助成プログラムについて
2. 2021年の助成プログラム構成について
3. 2021年度収支予算案(暫定)について

第 60 回理事会〔2021 年 3 月 23 日(火)〕

1. 2020 年度 特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」助成対象の決定について
2. 2020 年度 特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」助成対象の決定について
3. 2021 年度(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)事業計画書(案)及び収支予算書等(案)について
4. 選考委員の選任について(特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」・研究助成)
5. イニシアティブプログラム選考委員会 委員の名称変更について

報告事項

1. 会長・理事長・常務理事の職務執行状況について
2. 「助成管理システム」への第三者による不正アクセスの可能性があったことについて

評 議 員 会

第 22 回評議員会〔2020 年 6 月 24 日(水)〕

1. 2019 年度(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)事業報告(案)及び決算(案)の承認の件
2. 役員選任の件

第 23 回評議員会(書面)〔2021 年 3 月 31 日(水)〕

報告事項

1. 2021 年度(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)事業計画及び収支予算書等について

理事懇談会

第 1 回理事懇談会	2020 年 9 月 25 日(水)
第 2 回理事懇談会	2020 年 12 月 24 日(木)
第 3 回理事懇談会	2021 年 2 月 26 日(金)

特定課題「先端技術と共創する新たな人間社会」選考委員会

選考委員会 2021 年 1 月 26 日(火)

特定課題「外国人材の受け入れと日本社会」選考委員会

選考準備会 2021 年 1 月 13 日(水)
選考委員会 2021 年 2 月 1 日(月)

国内助成プログラム選考委員会

選考委員会 2020 年 8 月 3 日(月)

国際助成プログラム選考委員会

選考準備会	2020年 7月 2日(木)
選考委員会	2020年 7月 28日(火)

イニシアティブプログラム等選考委員会

第1回 選考委員会	2020年 5月 14日(木)
第2回 選考委員会	2020年 9月 9日(水)
第3回 選考委員会	2020年 12月 18日(金)

V. 附属明細書

2020年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。